スタートアップ・エコシステム形成支援　プラットフォーム紹介

令和3年度開始～令和7年度終了予定

プラットフォーム名　（令和6年7月時点）

GTIE（Greater Tokyo Innovation Ecosystem）

参画機関

主幹機関：東京大学、早稲田大学、東京工業大学
共同機関：筑波大学、千葉大学、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン、東京農工大学、お茶の水女子大学、神奈川県立保健福祉大学、CIC Toranomon、渋谷スクランブルスクエア、横浜国立大学、横浜市立大学、東京医科歯科大学、慶應義塾大学、東京都立大学、芝浦工業大学
幹事自治体：つくば市、茨城県、川崎市、横浜市、渋谷区、東京都

目指すスタートアップ・エコシステム

スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアムが掲げる目標に貢献するため、プログラム終了時に大学発ベンチャー数1,500社の達成と、「世界を変える大学発スタートアップを育てる」ことを目指す。

（1）起業活動支援プログラムの運営

- 令和3年度補正予算を活用したGTIEサーチファンド（令和4年度）を実施。当該実施状況を検証し、スタートアップ・エコシステム共創プログラムによる新たなギャップファンド事業を令和6年より実施。
- 各機関に配置される起業支援人材による学内研究者・シーズ発掘体制の強化と、ギャップファンド実施・終了後支援体制の強化を進める。

（2）アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

- 次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）で主幹機関を務めた東京大学、早稲田大学がそれぞれ実施しているプログラムを総動員し、また、共同機関を含めた各機関のプログラム実施のノウハウやステイクホルダーの情報の共有をWG等を通じて進め、GTIE関係機関における希望者が何らかのアントレプレナーシップ教育を受講できるようにする（年間受講者数1万人以上を目標）。共通プログラムGSEPも実施。

（3）起業環境の整備

- 東京工業大学のインキュベーション施設（INDEST：Innovation Design Studio）の一部をGTIE活動拠点とし、専門家・メンターの配置、コミュニティスペースの運用等を進める。
- 大学発スタートアップ創出に係る各機関内の知財等マネジメントの強化を進める。

（4）拠点都市のエコシステムの形成・発展

- Academic Entrepreneurによるスタートアップ創出の初期段階という、民間資金での支援が難しい対象を支援し、国内・海外の事業リソースと結びつけることで、大学発スタートアップの量と質を飛躍的に高める
- GTIE内に加え他PFとの連携による共同事業も推進し、これまで希薄だった地域間連携を促進し、新たな価値の創出につなげる

活動成果

・令和4年度GTIEサーチファンドの事後検証を踏まえ、より多くの機関の参画を得ることを目的としたギャップファンド事業を実施中。
・アントレプレナーシップ人材育成プログラムに係る実施状況やノウハウの共有を図り、GTIE全大学の学生が参加できる共通のプログラム（GSEP）も令和5年度より実施。また、EDGE PRIMEの活用を含め高校生等向け教育プログラム等の充実を図っている。
・GTIE内および全国PF間の連携を強めていくための活動拠点設置や共同イベントを実施している。また、参画機関間でのノウハウの共有と知見の高度化のためのWGも実施。GTIE関連スタートアップのグローバル展開を支援するための取り組みも実施している。